



SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.18 2007.3



- 第3回年次国際シンポジウム報告 特集号

東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

SIMOT では、平成 16 年度の事業開始以来、各年度末には国際シンポジウムを開催しており、毎回好評を博しております。

第3回となる今次国際シンポジウムは、2月27、28日の両日、東京工業大学にて開催されました。

本シンポジウムでは、AAAS (全米科学振興協会) 科学技術安全保障センター所長であり、歴代米国国務長官への科学技術アドバイザーとしても活躍されたノーマン・ノイライター博士や戦略技術経営の泰斗でありインテル研究の第一人者でもあるロバート・パーゲルマン スタンフォード大学教授など、本分野の第一人者による最先端の講演をいただくとともに、SIMOT メンバーによる研究の進捗状況を報告しました。

目次

● 特集	第3回年次国際シンポジウム報告	ページ 1
● 最近の動き	海外出張	4
● イベント予定	平成18年度後期 SIMOT 若手・RA 研究報告会	4
	SIMOT Workshop	4
	研究・技術計画学会 国際問題分科会 4月例会	4
● 連絡先		4

特集

第3回年次国際シンポジウム - イノベーションとインスティテューションとの共進化ダイナミズムの解明

今次国際シンポジウムの開催は、折しも前日の26日にイノベーション25戦略会議(座長:黒川清内閣特別顧問)が、「技術・社会・人材によるイノベーション」という、まさにSIMOTが標榜するインスティテューショナル・イノベーションを核とする中間とりまとめを発表した直後であり、きわめて時宜を得たものとなりました。

従って、1月から総合科学技術会議の有識者議員を務める相澤益男学長の開会のあいさつも、イノベーションを見据えた「本学の未来戦略とSIMOTに託す希望」についての熱のこもったものとなり、世界のイノベーションを主導する東工大のビジョンを力強く示すものとなりました。



さらに、本シンポジウム基調講演者のノーマン・ノイライター博士は、黒川特別顧問に招かれ、イノベーション戦略についての意見交換を行うなど、330名の出席者を集めた本シンポジウムの波及はきわめてタイムリーかつ広範なものとなりました。





今次シンポジウムは、基調講演、ゼネラルセッション、パネルディスカッションおよびブラウンバッグ・セッションにより構成され、SIMOT 分野の世界の第一人者による最先端の講演と併せて SIMOT メンバーが研究の進捗を報告しました。



基調講演

SIMOT では、「イノベーションとインスティテューション」に関する理論および方法論の深化を図ることを目的に、国内外の企業・研究機関で活躍する学者・ビジネスリーダーを毎年招聘し、講演をいただいております。今年度は、海外からは AAAS (全米科学振興協会) 科学技術安全保障センター所長 ノーマン・ノライター氏、スタンフォード大学 GSB 教授 ロバート・バーゲルマン氏、マンチェスター大学教授 ルーク・ジョルジュ氏を、国内からはグーグル株式会社 代表取締役社長 村上 憲郎氏、ファナック株式会社 代表取締役社長 稲葉 善治氏、独立行政法人経済産業研究所 上席研究員 鶴 光太郎氏の 6 名の方々にご講演いただきました。

1980 年代、90 年代における 日米半導体貿易摩擦からの教訓

ノーマン・ノライター氏

AAAS 科学技術安全保障
センター所長



TI アジアの VP として、日米貿易摩擦最中の 5 年間日本に駐在した同センター長は、この摩擦により両国の競争の態様が変わり、協調の風が芽生え、相互依存が高まったと論じました。そして、新たなグローバルな枠組みの中でその関係はパートナーにまで進化したとし、この経験を今後起こりうる貿易摩擦にどう活かすかについて自説を展開されました。

Google の理念

村上 憲郎氏

グーグル株式会社
代表取締役社長



「いわれ無き脅威論」やグーグルとヤフーのビジネスモデルの根本的な違いから議論を展開され、グーグルのミッション、パーソナライズされた Index 化サービス、サービス開発のプロセス、組織モデルやグローバルな文化といった組織インスティテューションにまで話は及びました。

自生的な戦略アクションを通じた 種形成: 共進化ロックインの惰性 の超克 (米国)

ロバート・バーゲルマン氏

スタンフォード大学
GSB 教授



企業進化における戦略の役割を専門とされるバーゲルマン教授は、企業内部で二つの戦略形成プロセス(中核事業を支えるトップ主導の戦略形成プロセスと新規事業を開発する現場主導の戦略形成プロセス)をバランスさせることが、トップ・マネジメントの任務であることと強調されました。

FA & ロボット: 工場自動化への 挑戦

稲葉 善治氏

ファナック株式会社
代表取締役社長



今日の製造業が直面する、少子高齢化を背景とした製品の多角化、短納期、熟練工の不足が惹起するコスト競争、多品種変量生産に対処する切り札として、「インテリジェント・ロボット」及びそれを活用した「ロボット・セル」を紹介。長時間連続の無人オペレーションによりコスト競争力を持ちうることを力説されました。

イノベーション政策 - 需要サイドの欠落

ルーク・ジョルジュ氏

マンチェスター
大学教授



欧州のイノベーションや R&D 投資のレベルに大きな懸念を抱く同教授は、ハイレベルの探査の結果、需要が企業の R&D 投資意思決定を大きく左右するとし、需要側の政策が不可欠とされました。政府の介入の正当性や公共調達、規制にも言及され、最後にその実施要件などを主張されました。

新たな創造と成長に向けた日本 のシステム改革

鶴 光太郎氏

独立行政法人経済産業研
究所
上席研究員



「比較制度分析」の視点からインスティテューションの考え方を説明されと後、「失われた 10 年」におけるシステム不調和、米国型システムへの収斂の可能性を論じられ、今後の日本にとって必要なインスティテューションの改変への施策を提案されました。

ゼネラル・チェアおよびセッション・チェア

1 日目



関口光晴
(東工大副学長)



蜂谷豊彦
(事業推進担当)



飯島淳一
(事業推進担当)



佐伯とも子
(事業推進担当)



伊藤謙治
(事業推進担当)



増田達夫
(SIMOT 事務局)



圓川隆夫
(サプライズ)



渡辺千仞
(拠点リーダ)



相澤益男
(東工大学長)



妹尾大
(事業推進担当)



中原恒雄氏
(SIMOT 評価委員長)



宮崎久美子
(事業推進担当)



N. ノライター氏
(基調講演者)



N. ノライター氏
(基調講演者)

ゼネラルセッション

本セッションでは、イノベーションとインスティテューションとの共進化ダイナミズムを核としながらも様々な角度から SIMOT に関する研究の深化を報告いたしました。

(1) SIMOTメンバーによる研究報告



企業の知的財産部門と他部門との連携に関する調査研究

田中 義敏
東工大 イノベーションマネジメント研究科 助教授



日本企業の新規株式公開 - 国際比較分析の視点から -

永田 京子
東工大 経営工学専攻 助教授



理化学研究所とイノベーション - 歴史からの一考察 -

木本 忠昭
東工大 経営工学専攻 教授



日本エレクトロニクス企業の知識化・ブランド化

菊池 隆
東工大 経営工学専攻 SIMOT 特任教授



循環型システムに向けて

村木 正昭
東工大 経営工学専攻 教授



ユーザに愛される技術のために - ユーザビリティを越えて -

梅室 博行
東工大 経営工学専攻 助教授



カーネル法によるパターン認識

矢島 安敏
東工大 経営工学専攻 助教授



最適化問題と内点法

水野 眞治
東工大 経営工学専攻 教授

前年のシンポジウムに引き続き、SIMOT メンバーの研究成果の発表を行わせていただきました。その内容は経営工学のスコopやその深度を反映して、様々な角度から SIMOT 的課題が直接、間接に論じられました。知財組織の視点、IPO プラクティスの国際比較、日本の大正期の歴史的検証や知識化・無形資産化の動向、加えて環境問題そしてエルゴノミクス的な視点にまで議論は及びました。また、そういった多岐な視点と対をなして、判別法や最適化問題などの数理的なメソッドロジーやアプローチにまで、議論は展開し、参加者の知的好奇心を真に喚起したものである。

(2) イノベーションとインスティテューションとの共進化ダイナミズム(国際比較) - 日・米・欧の視点から



EU の研究・イノベーション政策 (欧州)

フィリップ・ド・タクシー・デュ・ポエット
駐日欧州委員会代表部一等参事官、科学技術部長



日本におけるイノベーションとインスティテューションの共進化ダイナミズム: 「東西」システムの融合 (日本)

渡辺 千帆
東工大 経営工学専攻 教授 SIMOT 拠点リーダー

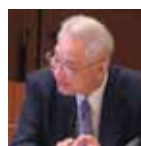


日米欧における大学発スタートアップの創出 (日米欧)

渡辺 孝
東工大 経営工学専攻 SIMOT 特任教授

パネルディスカッション

SIMOT 評価委員長 中原恒雄氏を座長に迎え、イノベーションとインスティテューションとの共進化ダイナミズムについて、基調講演者および SIMOT 事業推進担当者を中心に、フロアーからも意見を求めつつ、活発な議論が行われました。経済・経営をグローバル化のコンテキストにおいて論じる必要性、イノベーションの自己増殖性の認識の必要性、グローバルなリーダーシップを生み出す使命をもつ大学教育、イノベーションの暗部の認識の低さ、インスティテューションとグローバル化の関係の複雑性、大学発ブレイクの活性化、EU の官僚主義体制など、様々な論点が提示され、パネリスト、フロアー共に啓発されました。



ブラウンバック・セッション - インスティテューショナル技術経営学教育の進化

SIMOT では、同研究分野における世界的リーダ輩出を目的として、事業推進担当教員と内外ハイテク企業・官公庁の最先端のビジネス・行政の経験を有する特任教授が一体となって展開する中核講義「インスティテューショナル技術経営第一、第二」を平成 17 年度に開講しております。

同教育の一環として、昨年に続き、今次シンポジウムでも、同講義の受講生によるパネルディスカッションを行いました。司会進行から構成まで、学生主体で準備された今パネルディスカッションでは、SIMOT 講義内容を踏まえた、多様な経験・専門分野を有する学生による研究・教育報告に対し、国内外多様な背景を持つ方々からの貴重なご意見・議論をいただくことが出来、学生たちにとって貴重な体験となりました。



上段 (発表者、左から)
北原知就 (日本)、趙偉琳 (中国)、大内紀知 (日本)、Korakot Yaibuathet (タイ)、Bjoern Frank (ドイツ)、申宰浩 (韓国)

下段 (司会者兼発表者、左から)
荻久保瑞穂 (日本)、森山幸司 (日本)

最近の動き

● 海外出張

飯島、妹尾、永田 3月27日～29日 台湾 国立清華大学 (National Tsing Hua University)
中原大学 (Chung Yuan University)

イベント予定

平成 18 年度後期 SIMOT 若手・RA 研究報告会

日時 3月26日(月) 13:00 - 16:50
場所 東京工業大学 西9号館 311号室

SIMOT Workshop

日時 3月27日(火)、28日(水)
場所 財団法人国際文化会館 (東京都港区六本木)
テーマ Co-evolutionary Dynamism between Innovation and Institutional Systems:
Empirical analysis, Missing/insufficient discipline, Methodology

参加者 (参加自由: 下記 TEL/FAX/Email に申込)

- ・ Georges Haour 氏 IMD (国際経営開発研究所: スイス) 教授
- ・ Vinnie Jauhari 氏 インド国際経営技術大学 教授 ほか

研究・技術計画学会 国際問題分科会 4月例会

日時 4月20日(金) 18:00 - 20:00
場所 東京工業大学 百年記念館 第2会議室
テーマ 「進化経営学」 - インスティテューショナル技術経営学への示唆
講師 松行康夫氏 (東洋大学 経営学部 教授)



●● 発行 ●●



東京工業大学 21 世紀 COE プログラム
「インスティテューショナル技術経営学」 SIMOT 事務室

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51
東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内
西9号館 208B号室
TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250
Email: nakane.m.aa@m.titech.ac.jp
URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/index.html>
編集者: 菊池 隆